

科目名	コーチング論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
				□必修 □選択	
英文表記	Coaching Theory	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	なかざわ しょう	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	中澤 翔	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	スポーツの指導者に最も必要とされる基本的な思考や態度・行動について学ぶとともに、さまざまな特徴のあるスポーツの指導現場において必要な知識やマネジメントに関する内容について理解する。				
到達目標	・コーチングに関する基本的な思考や態度・行動について理解している ・スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考えを理解している ・さまざまな特徴のあるスポーツの指導現場において必要な知識やマネジメントに関する内容について理解している				
授業概要	スポーツの指導者に最も必要とされる基本的な思考や態度・行動について学ぶとともに、特徴のあるスポーツの指導現場において必要な知識やマネジメントに関する内容について理解する。テキストの内容を進めながら、アクティブラーニングにより学びを深める機会も作る。				
授業計画					
第1回	コーチングとは①（授業ガイダンスを含む） コーチングとコーチを定義する、グッドプレーヤーを育てるグッドコーチ（テキスト pp. 2-5）				
第2回	コーチングとは② プレーヤーズセンタードなコーチング（テキスト pp. 7-20）				
第3回	コーチに求められる役割 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割、コーチの果たすべき役割、安全なスポーツ環境の構築（予防）と問題発生時の対処法（テキスト pp. 22-28）				
第4回	コーチに求められる知識とスキル コーチング文脈、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識（テキスト pp. 29-32）				
第5回	対他者力を磨こう コミュニケーションスキル、ファシリテーションスキル（テキスト pp. 33-39、45-52）				
第6回	対自己力を磨こう コーチの学び、コーチのセルフマネジメント、さまざまな思考法や伝達法（テキスト pp. 56-70）				
第7回	スポーツの意義と価値① なぜ、コーチは「スポーツの意義と価値」を考えなければならないのか、社会の中におけるスポーツの価値（テキスト pp. 71-85）				
第8回	スポーツの意義と価値② 文化としてのスポーツ、スポーツの文化的特性、「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値、オリンピックズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方（テキスト pp. 85-95）				
第9回	スポーツの価値を守るスポーツ権、暴力・ハラスメントの根絶 スポーツの定義、基本的人権としてのスポーツ権、スポーツの価値（テキスト pp. 96-97）、暴力、ハラスメント、暴力・ハラスメントの根絶のために（テキスト pp. 103-110）				
第10回	スポーツのインテグリティ、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツにおけるインテグリティの確保、アンチ・ドーピング活動、アンチ・ドーピングのルール（テキスト pp. 111-114）、スポーツ指導者が負う法的責任、スポーツ指導者の負う注意義務（過失責任）、具体的な注意義務、具体的な事故事案（テキスト pp. 115-122）				
第11回	スポーツ倫理、時代をリードするコーチング スポーツ倫理が問題となる事案、フェアプレーの精神、スポーツの価値を体現すべきスポーツ指導者として（テキスト pp. 127）、女性コーチの活躍とスポーツを通じた女性の社会進出（テキスト pp. 128-129）				

第 12 回	コーチング環境の特徴① ジュニア期のコーチングの留意点、年齢区分からみたコーチングの留意点、運動部活動でのコーチングの留意点、(テキスト pp. 322-326、327-331、)
第 13 回	コーチング環境の特徴② 性別の考慮 (テキスト pp. 338-355)
第 14 回	スポーツ組織のマネジメント スポーツ組織の持続可能性、「目的」のマネジメント、「補完」のマネジメント、スポーツ指導者に求められるマネジメント (テキスト pp. 366-368、372-373)
第 15 回	障がい者とスポーツ (授業のまとめを含む) 障がい者・障がいの理解 (テキスト pp. 385-388)
第 16 回	定期試験
授業時間外の学習	『リファレンスブック (公益財団法人 日本スポーツ協会)』による予習・復習を行う。
履修条件 受講のルール	パソコン持参を指示する場合がある。
テキスト	『リファレンスブック (公益財団法人 日本スポーツ協会)』
参考文献・資料	『コーチング学への招待 (日本コーチング学会、大修館書店)』
成績評価の方法	筆記試験、受講態度、レポート課題を総合的に評価する。 総合評価：筆記試験 60%、受講態度 20%、レポート課題 20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日：9:00-12:00
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	